

研究結果報告書

日本における保育政策の再編と「家族主義」の特徴

所属： 慶南大学校 人文学部 社会福祉学科

役職： 副教授

氏名： 金智美

本研究の目的は、日本の保育政策の再編過程における女性の立場に着目して、高度経済成長期以来「家族主義」的な福祉国家体制のもとで女性が担ってきた諸機能が、1990年代半ば以降推進されてきた保育所制度改革のなかでどのように位置づけられていったかを解明することである。このため、本研究では、研究の分析枠組みとして、比較福祉国家論の理論的な枠組みを援用した「脱家族主義」という指標を設定し、日本型福祉国家体制の確立以来「家族主義」という名のもとに展開されていた「家庭内保育の担い手」や「家計補助的な稼ぎ手」としての女性の役割が、保育政策の再編過程においてどのように変化したのか、その現状を実証的に分析した。

本研究における分析結果をまとめれば、第1に、日本では、保育政策の再編過程において「公共保育体制」が崩れ、保育サービスの多元化・民営化を通じた量的・質的な拡大が推進されるなかで、従来もっぱら「家庭保育」に依存してきた児童保育の多くが社会的保育の場に移され、それだけ女性（母親）による保育負担が軽減され「家庭内保育の担い手」としての女性の役割が「縮小」された、ということである。これと関連して、第2に、日本の保育政策の再編過程では、「家庭での保育」から解放された女性（母親）たちが社会（労働）参加できる「機会」が増大し、さらにそうした「機会」を利用して労働市場に参加した女性らは、保育所を利用しながら仕事を続けられることが可能となり、従来からの「家計補助的な稼ぎ手」としての立場から開放され、「自立した女性」として生きられる機会が「増大」された、ということである。しかし、第3に、このように、従来「家族主義」的な日本の福祉国家モデルのもとで女性が担ってきた保育機能が、最近の保育政策の再編過程のなかで全般的に「縮小」されたとはいえ、そうした変化が家庭内のジェンダー関係の変化にまでは届かず、家庭内での保育の責任は相変わらず女性のものとして残されている、ということである。

以上のことより、本研究では、日本の保育政策の再編過程における「家族主義」の変化の有り様が、「家庭内保育の担い手としての女性の役割が縮小されると同時に、労働市場での家計補助的な稼ぎ手としての女性の立場が弱化されている一方で、家庭内での保育の責任はそのまま女性のものとして残されている」といった特徴を持っていることから、これを「新家族主義」と呼ぶことにした。よって、本研究は、最近日本において議論となっている、日本型福祉国家体制のモデル転換（つまり「脱家族主義」モデル）の可能性をめぐる諸議論に対して、「家族主義」的な日本の福祉国家モデルが「新家族主義」的なそれへと転換されつつある局面を検証することで、日本型福祉国家体制の行方に関わる新たな知見を提示したといえる。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

日本における保育政策の再編と「家族主義」の特徴・金智美・東アジア日本学会・2014年5月17日・仁川大学校（韓国）

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

日本における保育政策の再編と「家族主義」の特徴・金智美・『日本文化研究』・2014年7月15日（予定）

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

COMPLETION REPORT

Reorganization of the Japanese Child Daycare Policy and Familializing

Dr. Kim Jimi
Associate Professor
Dept. of Social Welfare
Kyungnam University
Korea

The main purpose of this study is to examine how the role of family(women in particular), which is thought to replace the function of the Japanese type welfare state established in 1960s to 1970s, has changed after 1980s. In order to more accurate examination, this study is focused on the relations between "Familializing" and local government's child daycare services. First of all, the analysis frame "De-familializing" is taken for the examination in this study. Based on the analysis frame mentioned above, the change procedure for the role of women, which replaced the function of welfare state as "Primary caregiver", "Part-time worker supplementing household income" under the name of "Familializing" in Japan, is analysed in detail. In result, the change of "Familializing" in the process of reorganization of the Japanese type welfare state regime can be defined as the concept characterized with "Neo-familializing".

Publication of the Results of Research Project:

Verbal Presentation (Date, Venue, Name of Conference, Title of Presentation, Presenter, etc.)

Reorganization of The Japanese Child Daycare Policy and Familializing • Kim, Jimi • The Association of Japanology in East Asia • May 17, 2014 • Incheon National University

Thesis (Name of Journal and its Date, Title and Author of Thesis, etc.)

Reorganization of The Japanese Child Daycare Policy and Familializing • Kim, Jimi • *Japanese Cultural Studies* • July 15, 2014

Book (Publisher and Date of the Book, Title and Author of the Book, etc.)